



サマール島東部ドロレス町の子ども

私たちに家を建てさせてください。

＜自然災害の影響を受けた子どもたちの事業：事務局長井川からのレポート＞

一人の子どもが、ひたむきに木を切っていました。私が呼びかけても、返事をしてくれません。近くの子どものたちが声をかけますが、それでも振り向くこともなく、木を切り続けます。私は、周りの子どもたちに聞いてみました。「あの子は何をしているの？」その返事に、私は、言葉を失いました。「家を作っているんだよ。家が壊れたけど、お父さんがいないから。」

別の日に地域を回っていると、崩れかけた一軒の家がありました。中を覗いてみると、一人の高齢の男性が、崩れかけた屋根の下でしゃがんでいました。「ここで妻と 2 人の孫と住んでいるんだ。家は壊れてしまったけど、年老いた私たちには、どうすることもできない。」

2014 年 12 月、フィリピン中部の島々を襲った大型台風 22 号（ハグピート）は、400 万人を超える被災者を生み出しました。特に、フィリピンの中でもミンダナオと並んで生活が厳しいと言われるサマール島では、多くの人々が竹でできた家で住んでおり、このことが被害を甚大なものにしました。そしてその中でも更に困難な状況に置かれている子どもたちや高齢者、シングルマザー、収入のない人たちが、現在も家がなく、壊れた家の下に住んでいます。

どこの社会の中にも、自分たちの力だけではどうすることもできない問題が存在します。しかしながら、それらの問題の多くは、私たち一人ひとりの「小さな力」を持ち寄れば、解決できるものです。私たちは、ここサマール島東部で、何とかして、このような人々の家を建てたいと思っています。しかし、そのためには、あなたの参加が不可欠です。ぜひ、以下のいずれかに参加し、家を建てさせてください。

クラウドファンディングで、100 万円の寄付を集めることを目標にしています。(期限:2/24)

1 軒でも多くの家を建てるため、クラウドファンディングを始めました。2 月 24 日までに目標額 100 万円が集まればアイキャンに寄付が入りますが、集まらなければ 0 円になってしまいます。ぜひ、ご寄付やシェアをお願いします！

【READY FOR?】 <https://readyfor.jp/projects/TyphoonHagupit>

マンスリーパートナーになっていただくことで、被災地の子どもを継続的に応援してください。

マンスリーパートナーは、月々 1,000 円から始められるご寄付の制度です。2015 年 4 月までに 200 名を目標に募集しており、現時点で 150 名になりました。あと 50 名です。ぜひ、参加をお願いします。下記までお問い合わせください。

認定 NPO 法人アイキャン (旧名称：アジア日本相互交流センター・ICAN) ※総会を経て、名称変更しました。

日本事務局：愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX：052-253-7299 メール：info@ican.or.jp

⇒ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>



アイキャン事務局長
井川定一 (いかわさだかず)
～プロフィール～

1979 年生まれ。フィリピン大学地域開発学修士課程を経て、ICAN マニラ事務所職員。2007 年外務省 NGO 専門調査員を経て、2008 年より現職。

Project Site



①コタバト州ピキット町

※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

①紛争の影響を受けた子どもたち

平和の学校が15校に！



アイキャンでは、コタバト州ピキット町の7つの村を対象に、草の根レベルから平和を促進するための「平和の学校」作りを3年間にわたり進めてきました。12月18日、州、町、日本大使館の代表、ミンダナオでの停戦状況を監視している国際停戦監視団の団長らが見守る中、7つの学校が新たに「平和の学校」となる宣言式が催され、教育省からの認定書の授与と、「School of Peace」のロゴを描いた新校舎の引渡しが行われました。これで、7村の「平和の学校」の数は、計15校になりました。

これらの学校を直接管轄する教育省ピキット事務所のバリンビガンさんは、「新しい校舎は勿論ですが、アイキャンが平和教育研修において『平和を作るのは私たち自身』であるという大切なメッセージをくれたことも、大きな贈り物です。ミンダナオで長く続く平和を私たちの力で作っていきましょう。」と参加者に語りかけました。

その後、平和研修に参加してきた教師や子どもたちが、民族衣装を着て伝統的の踊りを披露する中で、平和のメッセージを表現するなどして、宣言式を祝いました。村の長老の一人は、「村人がこんなふう集まって皆で平和を祝うことはこれまでになかった。これからは本当に平和が続いてほしい。」と述べました。

今後は、15校の「平和の学校」が、この地域の平和を推進する平和教育活動を行う拠点となっていく予定です。
(12月18日/ピキット)

②路上の子どもたち

クリスマスに伝えたい、感謝の気持ち

ドロップインセンターで、クリスマスのお祝いを兼ねた集会を行いました。この日が楽しみでならなかった24名の子どもたちは、開始4時間前には集まって出し物の練習を開始。集会では、ダンスや歌を披露した後、友人やスタッフに宛てたクリスマスカードを交換しました。レイジ君(12歳)は、スタッフのジョエルへ、「ありがとう、クヤジョエル。いつも僕を叱ってくれるのは、僕の為だと分かっています。メリークリスマス。」と書きました。最後に、日本の中学校からのクリスマスカードや文房具、企業からのお菓子や衛生用品をプレゼントされた子どもたちは、「特別な日になった。ありがとう。」と感謝の気持ちを述べていました。(12月16日/マニラ)



今月の ICAN を増やす活動

国際理解教育事業

世界の貧困問題に触れ、「できること」の第一歩へ



「世界の貧困の現状を知りたい」、「ボランティアに興味があるけど、何をしたらよいか分からない」という方を対象とした講座を開催しました。路上の子どもたちが置かれた状況やアイキャンの活動についてお話し、最後に「身近にある『できること』」を紹介。大学生から社会人まで8名の参加者は、熱心にメモを取り、グループワークでも積極的に意見を出し合いました。講座の後は、早速「できること」として街頭募金も実施し、路上の子どもたちの保護施設建設の必要性を、自分なりの言葉で呼びかけました。参加者からは、「今よりもっと自分にできることを増やして、子どもたちの未来につながるようにしたい」などの感想を頂きました。(12月20日/名古屋市)

今月の Announcement

書き損じハガキ、余った年賀状をお送りください！

アイキャンでは、活動資金に充てさせていただくための「書き損じハガキ」を常時募集しています。年賀状の残りや古いハガキ等、未投函の官製ハガキがお手元にありましたら、ぜひご郵送ください。未使用切手、商品券も募集しています。 <ご郵送先> 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 アイキャン宛



今月の ICAN な人

◎ 浅井さん、想いのこもったメッセージをありがとうございました！

マンスリーパートナー 浅井ひとみさん

「大学生の私にもできること」

インタビュー:12月25日

私は、アイキャンの街頭募金ボランティアをしている友達が、フェイスブックでスタディツアーを紹介していたことがきっかけで、2014年3月のツアーに参加しました。現地で感じたのは、お金の価値の大きさです。それまでは、1,000円やハガキ1枚では微々たる事しかできないと思っていたけど、実際に事業に活かされていることが分かり、月々1,000円なら大学生の私でもアルバイト代から出せると思って、マンスリーパートナーになりました。同時に、日本事務局のチャリティ語学教室「スマイルチケット」にも通い始め、授業の前後には、書き損じハガキのカウンタなどのお手伝いをしています。今は年賀状の季節なので、自分が事務所に来ても作業するだけでなく、身近にいる人たちにも書き損じハガキの募集を呼びかけて、活動を広めたいと思っています。



編集者から一言: 書き損じハガキは、1枚で給食2食やノート2冊に相当するほどの価値があります。ぜひ、身近な方にも呼びかけてください！